シ」「現代ノ身延二於テハ此深敬病院長綱脇龍妙師アリテ創メテ生命アリ光輝アリ」と讃えている。深敬病院には専属の医師もいて、診療は「全生病院医長光田氏ノ教ユル所ナルヲ以テ同一」であった。

深敬病院の視察を終えた本多は、結論として次のように述べている。

> 同シ宗教的病院ニ耶蘇旧教アリ新教アリテ仁慈ヲ施スモノ他ニモ有之ト雖トモ外教理ノ国民思想ト未ダ隔(ママ)合セザル今日に於テ人情風俗ノ異ル外国ノ下ニアルコト意志ノ不通ナルモノ甚シカラン。加フルニ大日本ノ国民ニシテ外国人ノ恩恵ヲ受クルコト及ビ自己ノ信仰ヲ抑圧シテ外教ニ属従センコト情ニ於テ忍ビサルコトアラン。此院ニハ是ナン幸哉。

以上、本多の報告書を読む限り、日本人が経営する慰廃園と深敬病院は全生病院と深く結び付き、それ以外の外国人経営のキリスト教主義の療養所は独自の診療をおこなっていたが、本多によれば、そこでは医療が重視されていなかったということになる。一口に私立療養所として一括できないのである。なお、以後の私立療養所については、本報告書・第十三の第 2「宗教界」などを参照。